

折を生じた。3) 人工関節周辺骨折の手術治療時の内固定は人工関節システムを含めた十分な長

さの固定が必要である。4) 橈骨神経麻痺に対する再建術は二期的に行った。

文 献

- 1) 松盛寛光ほか：当院における人工関節周辺骨折の6例。北整・外傷研誌 2009；25：10-14.
- 2) 森 亮ほか：人工股関節の緩みに合併した大腿骨骨折に対する **impaction bone graft** を併用した治療。整形・災害外科 2005；48：1501-1507.
- 3) 堺 慎ほか：肘人工関節周辺骨折症例の検討（会議録）。北整災誌 2010；52(1)：100-101.
- 4) 多田 薫ほか：人工肘関節トラブル症例の検討。日肘会誌 2006；13(2)：109-110.

ほっと ぷらざ

Ender 釘のホコリを払って…その2

(1) 開放骨折に使う

golden hour 内の Gustilo I, II, および IIIA 開放骨折は **non reaming nail** による一期的内固定術が可能ですが、**interlocking nail** の常備が無い病院ではあきらめて創外固定をしているようです。しかし **Ender 釘** も **non reaming nail** であり、開放骨折での好成績が報告されています。短縮の恐れがある場合は **Ender 釘** を避けて創外固定を立てれば良く、その際の創外固定は簡素なフレームで十分です。

(2) **damage control surgery** に使う

私は経験がありませんが、三次救急病院の多発外傷例で、複数肢に **interlocking nail** が入っているのを見ると、**Ender** 法なら手術時間も出血量も少ないのにと、複数肢に創外固定が立っているのを見ると、ICUでの体位交換やその後の皮弁手術が大変だろうと思います。

(3) 長幹骨の **MIPO** 法の整復位保持に使う

長幹骨の骨幹部～骨幹部端部骨折に **MIPO** 法が試みられています。その際、プレート固定までの整復位保持に創外固定を用いる事があるようです。しかし創外固定ではアライメントのコントロールが難しいし、プレートを避けて立てる必要があります。なぜ **Ender 釘** を用いないのでしょうか。mono-cortical screw を数本入れた時点で **Ender 釘** を抜去しても良いし、**Ender 釘** を残して **hybrid fixation** としても良いでしょう。これもまだ経験していませんが、チャンスがあれば試みたいと考えています。

江戸川病院 高 畑 智 嗣